

つながる笑顔、つながるまち

～レビー小体型認知症の理解と支援～

三宅 光代¹, 本多 容子¹, 福岡 裕行², 酒井 浩¹, 中井 良育¹, 宮本 年也¹
田丸 朋子¹, 阿部 宏史¹, 高橋 敏夫², 信岡 研身², 金城 恵美子², 菅沼 美佐子²
森本 由美子², 利根川 圭一², 津曲 敦子¹, 鈴木 太一⁴, 鈴木 征浩⁵

1 藍野大学, 2 訪問看護ステーションふるる, 3 藍野病院,
4 介護老人保健施設ラブリィきぬかけ, 5 株式会社 opsol

報告概要

レビー小体型認知症カフェ大阪は、DLB の当事者および家族が安心して交流できる場として開催している。毎月のカフェや年3回の勉強会を通じて、DLB への理解促進と孤立の軽減を目的としている。DLB は他の認知症と症状特性が異なるため、共通の経験を共有できる場は限られており、本活動は当事者と家族が語り合い支え合う貴重な機会となっている。

1. はじめに

レビー小体型認知症（以下、DLB）は、アルツハイマー型認知症など他の認知症と比較して知名度が低く、症状の特性も異なることから、当事者や家族が適切な情報や支援を得にくい現状がある。とくに、幻視や認知機能の変動、パーキンソニズムなどの特徴的な症状により、他の認知症カフェでは共通の体験を共有しにくく、孤立感を抱くケースも少なくない。

このような背景を踏まえ、DLB に特化した交流および情報提供の場として、「レビー小体型認知症カフェ大阪」の活動を実施している。

2. プロジェクト目的

本プロジェクトは、DLB の当事者およびそのご家族が安心して交流できる場を提供することを目的とする。具体的には、定期的なカフェの開催および勉強会・交流会を通じて、DLB に関する理解の促進を図るとともに、当事者・家族同士が体験や思いを共有し、相互に支え合うことで孤立の軽減につながることを目標としている。

3. 実施内容

本活動は 2022 年より継続して実施しており、主に以下の内容で構成されている。

まず、毎月1回のDLBカフェを開催し、当事者および家族が自由に語り合える交流の場を提供している。参加者同士が日常生活における困りごとや工夫、思いを共有することで、相互理解と心理的支援の促進を図っている。加えて、年2回の勉強会・交流会

を実施し、DLB に関する知識やケアの工夫について学ぶ機会を設けている。これにより、当事者および家族が疾患理解を深め、生活の質の向上につながる知識を得ることを支援している。また、これらの活動を通じて、当事者・家族のみならず、支援者や医療・福祉職とのつながりの構築も図っている。

表.1 勉強会参加人数

6月29日	10月25日
30名	24名



4. 結果・今後の展望

これまでの活動を通じて、当事者や家族からは「同じDLBの人と出会えた」「安心して話げできた」といった声が聞かれており、DLB に特化した交流の場として一定の役割を果たしていると考えられる。また、大阪府内にとどまらず他府県からの問い合わせもあり、本活動へのニーズの広がりが示唆されている。

一方で、DLB に関する社会的認知は依然として十分とはいえず、当事者や家族が適切な支援につながるための体制整備が課題である。

今後は、認知症専門医療機関や地域の医療・福祉機関との連携をさらに強化し、より多くの当事者・

家族に活動を周知するとともに、継続的かつ発展的な支援体制の構築を目指していく。